

## 第Ⅶ章 教育研究等環境

### 1. 現状の説明

#### (1)教育研究環境の整備に関する方針を明確に定めているか。

##### < 1 > 大学全体

平成 21 年に将来像検討委員会<sup>1)</sup>を発足した。名古屋市郊外にある日進キャンパスの広大な緑地としての魅力を生かした教育環境対策を検討すると同時に、都心に新キャンパス<sup>2)</sup>を置き、さらなる飛躍を行うことが検討された。なお、歯学部には歯学部設備施設機器検討委員会<sup>3)</sup>があり、教育研究環境の整備に努力している。

##### < 校地・校舎・施設・設備に係る大学の計画 >

施設・設備の老朽化に対応するため、耐震診断に基づき耐震補強工事(一部改築)及びリニューアル工事、バリアフリー工事、空調改修工事、エレベーター改修工事などを順次実施する。

平成 23 年 9 月には名古屋市北区名城公園に隣接する土地約 23,000 m<sup>2</sup>を取得し、平成 26 年 4 月に新学部である経済学部、既存の商学部、経営学部のビジネス系3学部の開設・移転をめざしている。都市再生プロジェクトをふまえた地区計画案の趣旨に合致した利用を図る。大学施設として整備し、併せて市民の憩いの場となるよう学内に広場を設けるとともに、市民講座を広く行うなど、学習・交流・活動の拠点を形成する。以上の計画により、ビジネス系3学部の1年次は日進キャンパスに、2年次以降は名城公園キャンパス<sup>2)</sup>に通学することとなる。

#### (2)十分な校地・校舎および施設・設備を整備しているか。

##### < 1 > 大学全体

##### < 校地・校舎等の整備状況とキャンパス・アメニティの形成 >

##### ①校地・校舎の整備状況

本学学生の使用するキャンパスは、名古屋市郊外の愛知県日進市と名古屋市千種区楠元・末盛の 3 ヶ所にわたっている。日進キャンパスには、大学院7研究科(法務・文学・心身科学・商学・経営・法学・総合政策研究科)、大学 6 学部(文・心身科学・商・経営・法・総合政策学部)に教養部(歯・薬学部 1 年次生含む。)を有し、楠元キャンパスには、歯学部(2～6 年次)・薬学部(2～6 年次)、末盛キャンパスには、南館・西館に中部地区最大級の歯科大学附属病院と北館には臨床系の研究施設を兼ね備え、高度先進医療を患者に提供している。

楠元キャンパス 1 号館は、名古屋市都市景観重要建築物に指定され、昭和初期のおもかげが残る建物として市民に愛され、大学の象徴として大切に保全されている。学生総数一人当たりの面積は、日進キャンパスにおいては校地が約 43 m<sup>2</sup>(総面積 460,078 m<sup>2</sup>)、校舎が約 15 m<sup>2</sup>(総面積 158,209 m<sup>2</sup>)に維持されており、大学設置基準面積を大幅に上回るゆとりある学習環境が実現されている。平成 20 年度に心身科学部健康栄養学科が開設するにあたり 14 号館を増築した。給食経営管理実習室、臨床栄養学実習室、栄養教育実習室、健康栄養学実習室、調理学実習室、栄養学・食品学実習室、生理学・生化学実習室などを備えている。また、名古屋市内にある楠元及び末盛キャンパスは、両キャンパス合わせて学生総数一人当たりの面積が、校地は約 26 m<sup>2</sup>(総面積 40,442 m<sup>2</sup>)、校舎は約 45 m<sup>2</sup>(総面積 69,755 m<sup>2</sup>)であり、やはり大学設置基準面積を上回る都市型キャンパスを備えている。平成24年度に大学院薬学研究科を開設するにあたり4号館を改築した。講義室、ゼミ室、機器室を備えている。

日進キャンパスの附属施設としては、緑豊かな広大な敷地内に講堂(4,186 m<sup>2</sup>)、体育館(4,855 m<sup>2</sup>)、スポーツセンター(7,453 m<sup>2</sup>)、学院会館、学院会館宿舎、合宿所、食堂4棟、研修会館、クラブハウス3棟と、陸上競技場(18,156 m<sup>2</sup>)・野球場(12,673 m<sup>2</sup>)・サッカー場(8,970 m<sup>2</sup>)・テニスコート11面(9,344 m<sup>2</sup>)の他、多目的グラウンド3ヶ所(41,898 m<sup>2</sup>)がゆとりをもって配置されている。

楠元・末盛キャンパスは、織田信秀の居城であった末盛城址(現城山神社)を挟み、名古屋市中心部から地下鉄で15分圏内の住宅地に設置されている。附属施設としては楠元キャンパスに、講堂(903 m<sup>2</sup>)、体育館(3,269 m<sup>2</sup>)、平成20年度に戦略研究施設として歯学部基礎教育研究棟の改造工事を実施し、未来口腔医療研究センターを開設した。<sup>4)</sup>

### ②キャンパス・アメニティの形成

日進キャンパス内には食堂が5箇所あり、各食堂の収容人数は、けやきテラス内食堂(1,000席)、さくらテラス内食堂(100席)、第2食堂1階(390席)、第2食堂2階(470席)、第3食堂(400席)である。また、昼食時の混雑解消対策として、建物内に3つの弁当業者を入れ、空き教室や屋外で昼食をとる学生に好評である。平成20年に完成した、けやき・さくらテラスでは、学生の要望・嗜好を配慮した個別の専門店舗展開(カレー・ハンバーガー・ラーメン)を行っている。なお、けやき・さくらテラス一帯は「学院の杜」として整備を進めており、芝生やウッドデッキ、水辺など自然を感じられる環境を取り込んでいる。楠元キャンパスでは、4号館1階カフェテリア(200席)、薬学部棟1階談話室(180席)、歯学部基礎棟1階談話室(180席)、末盛キャンパスでは、北館地下に食堂(80席)が完備されている。

日進キャンパスには13箇所の指定喫煙所を設け、キャンパス内で分煙化を図っている。また、年2回教職員、一般参加学生による「受動喫煙防止キャンペーン」を展開し、分煙の周知徹底、喫煙の害を知らしめる活動を行っている。

障害者への対応として、日進キャンパスでは、平成19年度に、バリアフリー工事計画の初年度として、1・3・7・9・14号館のスロープ・自動扉・教室の横引き戸化・身障者トイレの設置などを実施し、身障者用エレベーターの整備を行った。平成20年度には、バリアフリーⅡ期工事として2・9号館の自動扉・教室の横引き戸化を行った。平成21年度には、バリアフリーⅢ期工事として12号館のスロープ、自動扉・教室の横引き戸化を行った。楠元キャンパスでは、平成21年度に図書館棟バリアフリー工事を行った。

日進キャンパスでは自動車通学者が多いため、学生専用の駐車場(収容台数1,900台)を整備している。「交通安全講習」を受講し、所定の利用申請を行った後使用させている。ID学生証をゲートにかざすことで(登録サーバー上データと照合)入場できる仕組みで、不正入場防止に役立っている。

防犯面では、各建物内、学生駐車場を中心に防犯カメラ、定点カメラを設置し、学内における学生生活が安心して過ごせるよう配慮し、効果が出ている。映像管理は守衛室で一元管理されており、万一の場合は過去に遡り確認できる仕組みとなっている。

その他、近年のネット環境の急拡大を受け、学内4箇所にWi-Fiスポットを設け、ノートPCやスマートフォン利用者への便宜を図っている。また、平成23年に本部棟1階に新設された「A-cube」には、大型モニターやカラフルなベンチシートが設置され、学生の憩いの場として機能している。

今後のキャンパス・アメニティ形成に向けては、学生部学生課が主体となり 3 年に 1 度実施している「学生生活アンケート」の結果を元に、学生の要望や傾向を判断し、利用価値のある設備投資を考えている。

＜校地・校舎・施設・設備の維持・管理、安全・衛生の確保＞

①校地・校舎・施設・設備の維持・管理

本学の設備・管理等を維持・管理する体制は、各学部及び大学事務局などから要望された事項を財政部でとりまとめ 3 社以上の見積もりを取り、理事長・学長を始めとする理事会で施工・管理業者が決定される。

施設・設備の老朽化対策としては、日進キャンパスでは、平成 20 年度に 5 号館けやきテラス（旧第一食堂）を改築し、学生のニーズに適応したフードコート型の新食堂をオープンさせた。平成 21 年度、体育館では熱中症対策として空調設備工事を実施した。平成 22 年度には、教学センター新築工事、学院会館宿舎改築工事を行った。楠元キャンパスでは、平成 18 年度より 4 ヶ年計画で歯学部基礎教育研究棟の空調改修工事を実施した。また、歯学部基礎教育研究棟のトイレ改修工事を行った。平成 20 年度には、第 1・2・3 講義室の改造を行い、相互遠隔マルチメディアシステムを構築した。平成 22 年度には、講義室棟である 4 号館の改築工事を実施した。平成 23 年度には、基礎棟リニューアル工事、平成 24 年度には、補綴・保存実習室の設備更新と改修工事を行った。末盛キャンパスでは、平成 21 年度に空調改修を行い、平成 23 年度には、中央監視装置を更新した。

耐震改修事業については、日進キャンパスでは、平成 18・19 年度に 3 号館、平成 19 年度に 7 号館、平成 23 年度に本部棟の耐震リニューアルを行った。楠元キャンパスでは、平成 20・21 年度に 2 ヶ年計画で図書館耐震リニューアル工事を行った。

アスベスト対策は、順次調査を進め、平成 17 年度には日進キャンパスで校友会館を解体した。平成 19 年度に日進キャンパスでは、3 号館西渡り廊下、航空部・自動車部部室、末盛キャンパスでは、北館学生控室の除去工事を行った。平成 20 年度には、末盛キャンパスの機械室の除去工事を実施した。

日進キャンパスでは、平成 15 年度からコージェネレーションを導入し、ガスエネルギーを活用したエネルギー効率の向上に努めている。安全衛生管理の一部を外部委託し、コストの削減に努めている。楠元キャンパスでは、平成 20 年に名古屋市よりエコ事業所<sup>5)</sup>として認定された。さらに平成 23 年には更新認定されている。

②安全・衛生の確保

施設・設備の安全管理については、電気関係は主任技術者・工事士・エネルギー管理者、ボイラー関係は技士・整備士、危険物関係は取扱免許取得者、冷凍機関係は取扱責任者、衛生・環境関係は管理技術者・浄化槽技術管理者・浄化槽管理士・水道技術管理者、建築関係は設備点検資格者・検査資格者、消防関係は防火管理者、設備点検資格者・整備士、廃棄物関係は管理責任者を学内に配置し、関係監督官庁への許認可届出のほか常時測定・検査を実施し安全衛生管理を行っている。また、各施設・設備に対する管理者・管理係を置き、適正管理に努めているが、学内配置替などの管理担当者の異動に対応できるようにしている。

各キャンパスには、中央監視装置・防災監視盤を導入し、熱源設備・空調設備の監視・運転、電気設備・給排水設備の監視、消防用設備の監視・動作の制御及び照明操作盤にて、制御・状態監視を行っている。防犯対策としては、複数の防犯カメラを設置し、守衛室で映像の記録およ

び監視を行っている。校舎にはセキュリティ装置を設置し、特に夜間の入出退管理を実施している。環境保全については、緑化の拡充、コージェネレーションの導入、省電力型照明器具の採用等の対応、汚水処理場を独自に完備するなど省エネルギー対策、水質環境保全を実現している。廃棄物については、発生抑制・再利用・再生利用の適正処理に努めている。各キャンパスに防火防災管理者を置き、緊急防災対応の組織は出来上がっており、学生・教職員を動員した避難訓練を行っている。

### (3)図書館、学術情報サービスは十分に機能しているか。

#### < 1 > 大学全体

< 図書、学術雑誌、電子情報などの整備状況とその適切性 >

本学には、商学部・法学部・文学部・経営学部・総合政策学部・心身科学部および教養部がある日進キャンパスに「図書館情報センター（以下、「日進図書館」という）」が、歯学部（基礎部門）と薬学部がある楠元キャンパスに「歯学・薬学図書館情報センター（以下、「楠元図書館」という）」が、さらに、歯学部の臨床部門と附属病院がある末盛キャンパスに「歯学・薬学図書館情報センター分室（以下、「分室」という）」が設置されている。それぞれが、本学図書館の『理念と目標』<sup>6)</sup> に則りつつ、対象学部の利用学生と教職員のニーズに対応できるように独自色を打ち出し、特色ある運営方針に基づいて学術情報の整備と利用基盤の拡充・整備に努めている。付された情報センターの名前が示すように、図書や資料の系統的な収集・整理・保存・貸出といった図書館としての基本的業務に加えて、蓄積している学術情報を利用者の求めに応じて素早く提供する情報の発信基地として、さらには知的世界のナビゲーターとしての役割を担うべく、館員が一丸となって利用者に満足度のより高いサービスを提供できるよう取り組んでいる。

#### ① 学術情報の整備状況

日進図書館の蔵書数は、約 88 万 5 千冊（研究所等所蔵分約 15 万 5 千冊含む）学術雑誌については、和雑誌、洋雑誌、大学紀要、約 1 万 5 千種、視聴覚資料は約 3 万タイトルを数える。さらに、新館地下 1 階には、貴重資料室を設けている。所蔵資料の分野については、社会科学系分野の資料の占める割合が高い。約 12 万冊の図書資料を開架し、教育・学習用に供している<sup>7)</sup>。平成 18 年度以降毎年、蔵書点検システムを利用して蔵書点検を実施し、蔵書管理を徹底している<sup>8)</sup>。蔵書の特色として、仏教関係、大蔵経、漢籍（清代以前に中国で発行されたもの）、郷土資料（愛知県）、社史などを主に収集・所蔵している点が挙げられる。とりわけ本学の設立の関係から寺院文書についても、正眼寺文書（正眼寺は小牧市にあって、14 世紀はじめに後小松天皇によって建てられた古刹）をはじめ、多数の寺院文書を所蔵している。さらに、特殊文庫については、18 におよぶ個人文庫を所蔵し、学内外の利用者に貴重な学術資料を提供している。また、貴重資料として、貴重資料室に、百万塔陀羅尼、大英百科事典初版本、西洋古版地図など多数収蔵している<sup>9)</sup>。

楠元図書館では、平成 21 年度を初年度とする 3 カ年の中期整備計画を策定し<sup>10)</sup>、歯薬教育課程に準拠した情報提供の拡充に取り組んできた。蔵書数は、約 16 万 3 千冊であり、学術雑誌として和雑誌が 1,207 タイトル、洋雑誌が 1,197 タイトル、視聴覚資料は約 1,900 点、電子資料は 346 点に及んでいる<sup>7)</sup>。蔵書の特色として、自然科学系総合雑誌「Nature」を創刊号から揃えていること、歯科学の古典洋書（1880 年刊行）を所蔵していること、厚生労働省関係の統計資料が充実していることなどが挙げられる。約 6 万 5 千

冊の単行書のうち約 2 万 8 千冊を開架し、主に教育・学習用としている。平成 21 年度から図書記号を受入順から著者名順に改め、同一分類内で同一著者の著作がまとまるよう利用者の利便性を考慮した配架に変更した<sup>11)</sup>。また、平成 22 年度から医歯薬分野の電子書籍の購入に力を注ぎ、蔵書検索でヒットした書籍をホームページから閲覧できるシステムを構築し、利用者の便宜を図っている。

両館ともに、図書予算の削減と外国雑誌の価格高騰への対応として、重複発注や冊子体と電子ジャーナルの重複購入を避けるために複本チェックを強化し、学部毎に購読雑誌の利用調査や購読希望調査を実施して、購読雑誌の見直しに協力してもらっている。限られた図書館予算の有効運用に努めている<sup>12)</sup>。

## ② デジタル情報の発信

日進図書館では、50 種以上のデータベースを提供し、デジタル情報の充実を図っている。平成 20 年度から貴重資料室保存の貴重書のデジタル化に着手し、ホームページ上にて公開している。約 400 点以上の貴重資料が、世界中からアクセスされている<sup>13)</sup>。また、本学の学術紀要の電子化については、平成 23 年度から愛知学院大学学術紀要データベースのコンテンツを作成し、試験運用ながら 15 の紀要を掲載して学術情報を広く発信している<sup>14)</sup>。

楠元図書館では、機関リポジトリの推進に関する事業の一環として、関係学内の研究成果を積極的にホームページ上で公開している<sup>15)</sup>。

<図書館の規模、司書の資格等の専門能力を有する職員の配置、開館時間・閲覧室・情報検索設備などの利用環境>

### ① 図書館の規模

日進図書館は、平成 16 年に新館が増設され、総床面積約 1 万 4 千 m<sup>2</sup>（閲覧室等延床面積は 9,698 m<sup>2</sup>、書庫延床面積は 4,262 m<sup>2</sup>）、閲覧総座席数は 1,484 席（多目的ホール 90 席を含む）を有し、図書資料収容能力冊数は約 115 万冊（開架 15 万冊、書庫 100 万冊）といった、中部圏の私立大学中最大規模の図書館である<sup>16)</sup>。

楠元図書館は、平成 21 年度の耐震工事に伴うリニューアルにより、2 階部分にあった閲覧室を 1 階部分にも拡張した（閲覧総座席数は 182 席）。閲覧室等延床面積は 971.4 m<sup>2</sup>、書庫延床面積は 800.6 m<sup>2</sup>である<sup>7)</sup>。開架収容能力冊数は約 3 万冊で、4 層構造の書庫収容能力冊数は約 15 万冊である。2 階の閲覧室は、研究用医療図書館としての機能を集中させ、専門書や学術雑誌等の図書館資料を配架している。さらに、電子ジャーナルやデータベースが閲覧・利用できる設備等を充実し、AV ブースには 2 台の AV 機器を設置して、DVD やビデオテープなどの視聴覚資料の視聴を可能にしている。また、1 階閲覧室はラーニングコモンズ風の学習スペースとし、個人学習室 2 室と軽読書コーナーなどを設け、快適性と利便性を重視した学習環境を作り上げている。

分室は、すべて開架式になっており、臨床系専門図書等が配架されている。総床面積は 185 m<sup>2</sup>、閲覧座席数は 55 席である。さらに、TV とビデオデッキが 1 台置かれ、視聴可能である。書庫には、図書資料のほぼ 6 割を占める製本雑誌が保管されており、不要図書の廃棄基準を定めて、適正な蔵書構成となるよう努めている<sup>17)</sup>。

### ② 職員の配置、開館時間・開館日数

日進図書館の職員は、専任職員 7 名（および館長 1 名）と業務委託契約社員 21 名（閲覧関係業務委託：17 人口、整理関係業務委託：4 人口）で構成されている。専任職員のうち

ち5名が司書ないし司書補の有資格者である。なお、業務委託社員についても、ほとんどが司書ないし司書補の有資格者である。平成23年度の開館日数は275日であり、授業開講期間中は祝祭日・日曜日を除き開館している（夏季休暇中、土曜日は閉館）。開館時間について、授業開講期間中の平日は9時から20時まで（夏季期間中は9時から17時30分まで）、土曜日は9時から13時までとなっている。

楠元図書館の職員は、専任職員3名（およびセンター長1名）と委託社員7名で、そのうち9名が司書ないし司書補の有資格者である。また3名は、ヘルスサイエンス専門員の資格を取得し、医学図書館員としての能力向上に努めている。平成23年度の開館日数は279日であり、授業開講期間中は祝祭日・日曜日を除き開館している（夏季休暇中、土曜日は閉館）。授業開講期間中の平日は9時から20時まで、土曜日は9時から12時まで開館している（夏季休暇中、楠元図書館は9時から17時30分まで、分室は9時から19時まで）。なお、開館時間の延長に対する利用者からの強い要望に応えるため、鋭意検討中である<sup>18)</sup>。

### ③ 情報検索の設備

日進図書館は、蔵書検索用端末を1階に3台、2階に17台、3階に7台、合計27台設置している。情報検索用としては、1階の情報検索コーナーに42台、2階のレファレンスカウンターに4台、合計46台の情報検索用端末を設置し、データベースや電子ジャーナルの利用に供している。なお、情報検索コーナーの一部を情報教室として運用しており、各種データベース講習会や情報検索講習会を開催している。<sup>17)</sup>

楠元図書館は、蔵書検索用端末を1階と2階に各2台、分室に1台、合計5台設置している。情報検索用としては、2階に9台、分室に2台、合計11台の検索用端末を設置し、データベースや電子ジャーナルの利用に供している。閲覧室には、無線LANが設備されており、パソコンの持ち込みを許可して利用者の便に寄与している<sup>19)</sup>。

### ④ 学習支援サービスの提供

日進図書館では、平成16年度から意見箱を設置し、利用者のニーズを把握するために活用している。希望図書の購入についても、ほぼ要望に応じるようにしている。平成16年度からは、館内オリエンテーションや書庫オリエンテーションだけでなく、初年次教育の図書館学習支援の観点から、授業用オリエンテーションを積極的に展開している<sup>20)</sup>。平成22年度には、システム全体をリプレイスし、サーバーの機能をバージョンアップし、より高度化情報時代に即したシステムに改めた。その際にホームページについても全面改訂し、利用者ポータル機能を充実させ、マイページを作成して利用者の利便性を高めている<sup>21)</sup>。また、平成11年10月から導入した朝日新聞の記事データベース（デジタルニュース・アーカイブ・フォーライブラリー）を皮切りに、現在では50種以上のデータベースを提供し、デジタル情報の充実化に鋭意努めている<sup>22)</sup>。

楠元図書館でも、意見箱の設置や希望図書情報収集を継続して行い、利用者の意向を尊重した図書館運営とサービスの向上に心掛けている。平成23年度のオリエンテーションでは、専任と委託スタッフによる本格的な図書館ガイダンスを実施した<sup>23)</sup>。また、平成21年度から歯学研究科1年生の特別講義を受け持ち、「図書館情報の利用法」のガイダンスを行っている<sup>24)</sup>。利用者教育の一環として、研究室、クラス、小グループ単位を対象に各種データベースへのナビゲーション機能の紹介出張サービスも行っている<sup>25)</sup>。利用者へ

の情報発信のために、毎月「AGU D・P Library News」を、また毎年「年報」<sup>19)</sup>を発行している。

＜国内外の教育研究機関との学術情報相互提供システムの整備＞

両館ともに、図書館間の相互協力について文献複写・現物貸借を積極的に進めたり、図書館施設の地域への開放に心掛けている。平成 23 年度から国公立大学コンソーシアムである JUSTICE が設立され、種々のデータベースの価格交渉を行い、全国レベルで海外ベンダーと対応するため、国公立大学図書館間で調整をしている<sup>26)</sup>。また、両館は、平成 20 年度から国立国会図書館レファレンス共同事業に参加し、レファレンス事例（日進図書館は 249 件、楠元図書館は 61 件）を登録・公開している。さらに、CAN 私立大学コンソーシアム（中部大学・愛知学院大学・南山大学）を平成 12 年に結成した。加盟各大学の所蔵資料を横断的に検索するシステムを構築し、加盟三大学の学生・教職員が、インターネット上で効率よく資料検索ができるよう発展的に運用している<sup>27)</sup>。

また、楠元図書館では、東海地区医学図書館協議会および薬学図書館協議会加盟の図書館との連携を深め、東海地区医学図書館協議会の「東海目録」に参加して、地域の医療関係者に情報提供の便宜を図っている。

**(4)教育研究を支援する環境や条件は適切に整備されているか。**

＜1＞大学全体

①教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備

本学の教育課程はその教育目的に適すべく、設置基準にある講義、演習、実技・実験・実習に別れて行われている。

1) 平成 24 年度の受講者数

受講者数	H24 春 (開講コマ数)	H24 秋 (開講コマ数)
～50	1690	1904
51～100	449	423
101～150	194	169
151～200	67	70
201～250	36	18
251～300	8	5
301～350	7	0
351～400	1	2
400～	1	0
合計	2453	2591

多人数授業対策として次の 2 点を実施している

- i) 200 名以上の講義には、教育環境整備の一環として TA を配置している。これ以下であっても担当者の要請があれば TA を配置しているのが実態である。
- ii) 200 名以上の講義はできる限り避けるため、2 クラスに分けるなどの努力をしているところである。

2) 演習の受講者数

演習については学部によって異なるが、総合政策学部を仮にとってみると、上限を 18 名として行われている。他の学部もほぼ同じ状況で 10 名前後が最も多い。

大学全体では、30 名以下の演習は 425 コマである。

3) 語学の受講者数は 40 名を上限として行っている。

## 第Ⅶ章 教育研究等環境

### 4) 情報処理教育関係 教室利用状況

#### i) 情報処理教育センター<sup>28)</sup>

教室 第1クライアント室～第9クライアント室

7101、7102、7201、7301、9104、9106 教室

以上の教室を月曜から金曜日までの利用可能コマ数 375 コマ

実際の稼働は 22 コマ 稼働率 59.2%

#### ii) 12号館（総合政策学部）

12号館におけるPC設置状況は、現在PC46台設置教室が5教室。ICRに70台設置している。

#### ア) 平成24年度PC教室使用状況<sup>29)</sup>

月～金までの教室使用は、春学期平均48%。秋学期平均54%である。

#### イ) 情報処理関係授業でのSAの配置状況<sup>30)</sup>

月曜日 18名 火曜日 25名 水曜日 25名 木曜日 18名 金曜日 13名

#### エ) ICR利用状況<sup>31)</sup>

月曜日 220名 火曜日 410名 水曜日 390名 木曜日 440名 金曜日 360名

5) 1)～4)を可能とする学部・研究科ごとの講義室・演習室及び実験・実習室の面積（大学データ集参考：表28参照）

6) 学部・研究科別、講義室・演習室使用状況一覧（大学データ集参考：表30参照）

7) 実習関係は50名以下を原則としており、175コマが行われている。

次にこれら受講者のための平成24年度にみる教室使用率は下記の通りで、いずれの教室も余裕がある。

（平成24年度 教室使用率）

種別	通常		ゼミ		実習		心身実習	
	使用数	%	使用数	%	使用数	%	使用数	%
春学期	1697	46.18%	425	19.10%	10	13.33%	26	10.40%
秋学期	1663	45.25%	431	19.37%	10	13.33%	22	8.80%
平均	3360	45.71%	856	19.24%	20	13.33%	48	9.60%
教室数	147		89		3		10	

種別	LL		その他		総計	
	使用数	%	使用数	%	使用数	%
春学期	65	52.00%	37	24.67%	2260	34.77%
秋学期	66	52.80%	38	25.33%	2230	34.31%
平均	131	52.40%	75	25.00%	4490	34.54%
教室数	5		6		260	

### ②TA・RA・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備

本学ではTA制度を導入しており、RA、及び技術スタッフは検討事項として残された課題である。

#### 1) TA制度の導入

TA制度は2008年秋から検討が始まり、翌2009年春より本格導入された。当初は200名以上の多人数授業に配置をし、教育環境をよりよく整備することを目的に始まったが、

現在では担当者が希望し、その要望に応じられる院生がいれば、原則配置する方針でのぞんでいる（ただし、100名以下はご遠慮願っている）。

TAの主な業務は、出席管理と配付資料の管理である<sup>32)</sup>。

2) 平成21年度～24年度までのティーチングアシスタント採用数推移

i) 平成24年度TAを活用した授業<sup>33)</sup>

春学期：55コマ 秋学期：43コマ

ii) ティーチングアシスタント採用者数推移（正規生及び非正規生）

		宗教学 仏教学専攻	歴史学専攻	英語圏 文化専攻	日本文化 専攻	心理学 専攻	健康科学 専攻	商学 研究科	経営学 研究科	法学 研究科	総合政策 研究科	合計
21年度	春学期	1	4		1	6		3	7		4	26
	秋学期	1	4		1	3		3	3		4	19
22年度	春学期	1	6	1	2	6		6	2	4	5	33
	秋学期	1	5	1	1	5		4	1	2	4	24
23年度	春学期		7		2	8		5	5		6	33
	秋学期		7		1	5		4	4		5	26
24年度	春学期		8	1	4	6		1	2	1	4	27
	秋学期		8	1	3	4		1	2		4	23

3) 次年度より本格導入を検討しているピア・サポート・システムによるSA制度

学生の中から優れた学生を選び、仲間への指導及び教員の補助にあたるSA制度は既に総合政策学部の情報処理関係科目で導入され実績をあげており、心身科学部でも24年秋学期より導入を始めた。他学部でも検討をしているところである。この制度のねらいは、指導役にあたった学生が、仲間に指導とアドバイスをすることにより、より自分に自信を持つことをめざしたものである。

③教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

1) 教員の研究費

・教員の研究費については「個人研究費規程」<sup>34)</sup>及び「学会出張費規程」<sup>35)</sup>に定めてある。

・現在の個人研究費及び学会出張費は次の通りである。

(平成24年度個人研究費一覧)

	教 授	准 教 授 ・ 講 師	助 手
個人研究費	415,000円	405,000円	255,000円

(平成24年度学会出張費一覧)

	教 授	准 教 授 ・ 講 師	助 手
学会出張費	225,000円	215,000円	215,000円

2) 教員の研究室

- ・教員の研究室は根拠資料<sup>36)</sup>の通りである。
- ・歯学部、薬学部を除いて原則全教員が個室を持っている。

3) 教員の研究専念時間

日進キャンパスにおいては、一般的にはノルマは週5コマ、語学・体育系は5コマと定められている。実態は平均して6～7コマというノルマ+1又は2である。この他には教員は会議、office hourにおける学生指導等に時間をさかれ、教員の研究及び授業のための準

備等は、いずれの教員も精一杯の努力の中で確保している。

### <2> 歯学部 (楠元学舎)

歯学部共同利用施設として未来口腔医療研究センターが歯学部基礎教育研究棟内<sup>37)</sup>に設置されており、教育研究用の大型機器(組織切片自動作製装置、分子間相互作用定量システム、ICP 発光分光分析装置、蛍光 X 線分析顕微鏡、蛍光・発光・吸光マルチ測定システム、キャピラリーサイトメーター、マイクロダイセクションシステム、**DNA** シーケンシングシステム、遺伝子発現解析システム、発光顕微鏡/EM-CCD カメラシステム、小型レーザー焼結型 RP システム、電子プローブマイクロアナライザ、超遠心機など)が整備されている。さらに歯学部基礎教育研究棟には、大・中型動物の飼育も可能な動物実験センター、電子顕微鏡施設、アイソトープ研究施設が設置されており、共同利用施設となっている<sup>38)</sup>。

歯学部には臨床教育を実施するための施設として愛知学院大学歯学部附属病院が設置されており、16 の専門診療部と 13 の特殊診療外来が設けられている<sup>39)</sup>。専門診療部診療科の中には、内科、外科、小児科、耳鼻咽喉科も含まれ、関連する医科分野とも連携が図られている<sup>39)</sup>。常勤従事者総数は 372 名で、このうち歯科医師は 128 名、医師は 8 名である<sup>40)</sup>。診療ユニット総数は 198 台、手術室 3 室を備え、一般病床数は 44 床である<sup>40)</sup>。

各講座には教育研究を支援するため、1~2 名の補助者(実験補手または教務実習補手)が配置されている<sup>41)</sup>。動物実験センター、電子顕微鏡施設、アイソトープ研究施設、未来口腔医療研究センターにも施設と設置機器の管理および利用者の援助のために数名の専任職員が配置されている<sup>41)</sup>。

歯学部は講座制をとっているため、教員の研究費は講座単位で配分され、講座の方針に従って運用される。1 講座あたりの研究費はおよそ 300 万円である(所属する大学院生の数等により変動がある)。講座の研究設備等の充実・更新を図るため、各年度に基礎系の 2 講座と臨床系の 3 講座に順次 240 万円の予算が配分される。さらに、講師、准教授、教授にはそれぞれ年額 6、7、10 万円の指導研究費が支給されている。職責が増すにつれ、教育・会議・委員会活動等に係る時間が増加し、研究専念時間を通常の勤務時間内に確保することが困難になる傾向がある。1 講座あたりの研究室の床面積はおよそ 200 平方メートルである<sup>42)</sup>。

以上に基づき、教育研究を支援する環境や条件は適切に整備されていると思われる。

### <3> 薬学部 (楠元学舎)

薬学部の各講座あたりの床面積は 144~163m<sup>2</sup>である<sup>43)</sup>。そのうち約 113~114m<sup>2</sup>が研究スペースとして利用可能であるが、その一部を講座スタッフ(1~2 名)および配属学生(1 学年 9 名~10 名で 2 学年)の居住スペースとしても使用している。共同機器室が薬学部棟内<sup>43)</sup> <sup>44)</sup> および 4 号館内(大学院薬学研究科との共同利用)に設置され、教育研究用の大型機器(NMR、共焦点レーザー顕微鏡、シークエンサー、フローサイトメーター、セルアナライザーなど)が整備されている<sup>45)</sup>。薬学部棟内には小動物用の簡易の動物センターが設置されているが<sup>42)</sup>、大・中型動物の飼育には、歯学部動物センターの利用も可能となっている<sup>42)</sup>。

薬学部棟には 180~190 名収容可能なマルチメディア対応の大講義室(机イス固定式)が 4 室設置されており、視覚映像教材などを用いた効果的教育が実施できる環境となっ

いる<sup>42)</sup>。また薬学棟隣接の4号館には薬学部が利用できる230名収容可能なマルチメディア対応の大講義室(机イス固定式)が1室設置されている<sup>43)</sup>。さらに薬学部棟には80名収容の中講義室(2部屋、マルチメディア対応、机イス移動式)が常時利用可能となっている。

楠元キャンパスには、歯学部・薬学部共通で、少人数の参加型学習が実施可能な小教室(10～30名定員)が9部屋のほか、薬学部棟の6部屋(セミナー室兼用)も利用可能である<sup>43)</sup>。さらに机をアイランド型に自由に配置できる大教室が薬学部棟内に5部屋(2部屋は中講義室として兼用、5階多目的室、6階薬学情報センター、8階多目的室)設置されており、4～10グループ同時に参加型学習が実施できる<sup>43)</sup>。

その他、基礎・医療薬学実習用の実習室(60～80名用4部屋)、パソコン室(PC168台、カラーレーザープリンター4台<sup>43)</sup>、薬剤実習センター<sup>43)</sup>、動物実験施設(薬学棟(小型動物用<sup>43)</sup>)、歯学部棟(大型・中型動物用<sup>43)</sup>)、RI実験施設<sup>43)</sup>、薬用植物園(日進および楠元薬用植物園)および生薬標本棚<sup>43)</sup>が楠元キャンパスに整備され、利用可能である。

実務実習モデル・コアカリキュラムに準拠した実務実習事前学習を実施するため、薬学部棟5階に薬剤実習センターを設けている<sup>43)</sup>。薬剤実習センターには模擬薬局、模擬病室、クリーンベンチ、製剤調剤スペース等が設置されている。

卒業研究で利用可能なスペースとして、各講座に113～114m<sup>2</sup>が割当られ、各講座の特徴を生かした多様な卒業研究が実施されている<sup>43)</sup>。また薬学部棟に設置された共同機器室(7階158m<sup>2</sup>、6階114m<sup>2</sup>)、遺伝子実験室(7階P2用23m<sup>2</sup>)、シールドルーム(7階45m<sup>2</sup>)、低温室(6階共同機器室内)、4号館大学院薬学研究科実験室(5階90m<sup>2</sup>)が利用できる<sup>46)</sup>。

#### (5) 研究倫理を遵守するために必要な措置をとっているか。

##### < 1 > 大学全体

本学では、「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)」(平成19年2月15日文科科学大臣決定)に基づいて、公的研究費に係る管理・運営体制、内部監査体制の整備、不正防止に取り組むために、平成22年6月1日に「学校法人愛知学院における公的研究費等の取扱規程」<sup>47)</sup>を制定・施行した。これと併せて研究者に対しては、「愛知学院大学における研究者の行動規範」<sup>48)</sup>を定め、関連する「研究活動の不正行為に関する取扱規程・同実施細則」<sup>49)</sup><sup>50)</sup>を整備している。これらの規程等は、学内で開催する科学研究費補助金説明会及び研究支援課専用のホームページを通じて広く周知している。

ハラスメントに関しては、本学の学生、職員及び本学と関係を有する者に関わるハラスメントを防止し、ハラスメントによる被害を救済し、本学における快適な教育、研究、学習及び職場の環境を保障することを目的として、平成21年12月1日に「愛知学院大学ハラスメントの防止及び処理に関する規程」<sup>51)</sup>を制定・施行し、必要な対応が行えるようにしている。

遺伝子組み換え生物等の使用に関しては、平成2年4月1日に「愛知学院大学組換えDNA実験安全管理規程」<sup>52)</sup>を制定・施行し、遺伝子組み換え生物使用の安全かつ適正な実施を図っている。

ヒトや動物を対象とする研究に関しては、「愛知学院大学歯学部ヒト幹細胞臨床研究に関

する規程」(平成 22 年 5 月施行)<sup>53)</sup>、「愛知学院大学歯学部ヒト細胞組織遺伝子疫学情報倫理委員会内規」(平成 22 年 4 月 1 日施行)<sup>54)</sup>、「愛知学院大学歯学部動物実験実施規程」(平成 20 年 10 月施行)<sup>55)</sup>、「愛知学院大学薬学部動物実験委員会規程」(平成 18 年施行)<sup>56)</sup>、「愛知学院大学教養部動物実験委員会規程」(平成 21 年 4 月 1 日施行)<sup>57)</sup>を踏まえ、各種委員会等を設置するなどの体制を整備し、必要な対応が行えるようにしている。

### <2>歯学部(楠元学舎)

愛知学院大学で研究活動を行うすべての者及びこれを支援する者を対象とした「愛知学院大学における研究者の行動規範」<sup>48)</sup>を制定して不正行為の防止に努めると共に、不正の告発などに対処するため「愛知学院大学における研究活動の不正行為に関する取扱規程」<sup>49)</sup>「愛知学院大学における研究活動の不正行為に関する実施細則」<sup>50)</sup>を定め、上記の取扱規程で規定される研究活動不正行為対策委員会を設置して対応している。

歯学部にも所属する研究者が行うヒトを対象とした研究およびその臨床応用について、ヘルシンキ宣言の趣旨に沿った倫理的配慮を図ることを目的として「愛知学院大学歯学部倫理委員会」<sup>58)</sup>が設置されており、研究者から申請された研究等の実施計画の内容とその成果の好評に関する事項について審査している。

上記の「愛知学院大学歯学部倫理委員会」の審査対象のうちで、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関しては、「愛知学院大学歯学部ヒト細胞組織遺伝子疫学情報倫理委員会」<sup>54)</sup>で審査している。

上記の「愛知学院大学歯学部倫理委員会」の審査対象のうちで、ヒト幹細胞臨床研究に関しては、「愛知学院大学歯学部ヒト幹細胞臨床研究倫理審査委員会」<sup>59)</sup>で審査している。

愛知学院大学歯学部で行われる動物実験が倫理的配慮に基づいて行われることを含め、動物実験が適正に実施されるよう「愛知学院大学歯学部動物実験実施規程」<sup>55)</sup>および「愛知学院大学歯学部動物実験センターの利用に関する細則」<sup>59)</sup>が制定されており、実験動物に対する倫理的配慮を含めて動物実験計画の適否を歯学部動物実験委員会で審査している。

上記のように、研究倫理を遵守するために必要な措置はとられているものと思われる。

### <3>薬学部(楠元学舎)

研究倫理を遵守するために「愛知学院大学における研究者の行動規範」<sup>48)</sup>「愛知学院大学における研究活動の不正行為に関する取り扱い規程」<sup>49)</sup>が定められ、教員にこれを周知するとともに、年 2 回程度、科学研究費の説明会等で研究支援課がこれらについて教職員に説明を行っている。また薬学部臨床研究倫理委員会の設置や「薬学部動物実験指針」の策定により、臨床研究や動物実験研究が研究倫理に基づき適切に実施されていることを担保している<sup>60) 61)</sup>。

## 2. 点検・評価

### ①効果が上がっている事項(優れている事項)

#### <1>大学全体

##### 【校地・校舎、施設・設備整備】

新キャンパス(名城公園キャンパス)用地として、平成 23 年 9 月に名古屋市北区名城公園に隣接する土地約 23,000 m<sup>2</sup>を取得した。

施設・設備の老朽化対策としては、日進キャンパスでは、平成 20 年度に 5 号館けやき

テラス（旧第一食堂）を改築し、学生のニーズに適応したフードコート型の新食堂をオープンさせた。楠元キャンパスでは、平成 22 年度に講義室棟である 4 号館の改築工事を実施し、1 階にカフェテリアを新設した。

耐震改修事業については、日進キャンパスでは、平成 18・19 年度に 3 号館、平成 19 年度に 7 号館、平成 23 年度に本部棟の耐震リニューアルを行った結果、校舎の耐震基準をクリアした。

### 【図書館、学術情報サービス】

#### ①学習・教育支援の推進(学部教学と連携する図書館)

両館ともに、オリエンテーションを実施。日進図書館では、3 種類(館内・書庫・授業)のオリエンテーションを実施することにより、初年次教育を支援<sup>62)</sup>。

楠元図書館では、医学に特化した検索法のオリエンテーションを実施し、レポート・卒論作成の際の資料収集を支援<sup>63)</sup>。

日進図書館では平成 20 年度より、楠元図書館では平成 22 年度より、国立国会図書館レファレンス協同データベースに参加、レファレンス事例を積極的に登録し、ホームページ上で公開している。この活動が認められ、国立国会図書館より礼状受領（平成 21 年度 日進図書館）<sup>64)</sup>。さらに、企画協力員賞を受賞(平成 23 年度 楠元図書館)<sup>65)</sup>。

#### ②研究支援の充実

日進図書館では、各種データベースを有効活用できる横断検索ソフトを導入。その都度はもちろん、定期的に講習会を開催<sup>66)</sup>。本学発刊の紀要類のデータベース化について、平成 23 年度より入力作業に着手。平成 24 年度に日進図書館ホームページ上から PDF を公開<sup>67)</sup>。

#### ③全国レベルの医学図書館間の提携の深化

楠元図書館では、特定非営利活動法人日本医学図書館協会第 82 回通常総会（平成 23 年 5 月 20 日）の開催館として準備を行った。東日本大震災の影響が残る中での開催であり、被災館への支援も含め、医学図書館間の提携の一助となった<sup>68)</sup>。

#### ④社会貢献の推進

日進図書館では、平成 22 年度に大学が立地する日進市との間で、官学連携協力協定が締結されたのを契機に、共催企画(本館所蔵の 16 ミリ映画の上映会とそれに因んだ内容の講演会など)を毎年実施<sup>69)</sup>。

### ②改善すべき事項

#### <大学全体>

### 【校地・校舎、施設・設備整備】

楠元キャンパスは 1・2・3 号館、末盛キャンパスは北館の施設・設備の老朽化が著しく、改修または建て替えが必要となっている。キャンパス自体が住宅地に隣接しているため、周辺地域住民と十分協議のうえ、慎重かつ安全なリニューアル計画が必要とされている。

### 【図書館、学術情報サービス】

#### ①学習・教育支援の推進(学部教学と連携する図書館)

学習・研究・教育を支える基盤的施設として、学部学科との連携を強化。学習環境の充実を図るために、教育内容を把握してシラバス掲載図書の購入に努めたい<sup>70)</sup>。

また、レファレンス共同データベースへ、より高質な事例登録の継続にも努める<sup>71)</sup>。

□資料組織の構築

大学図書館としての特徴ある資料の収集および組織構築を図る。さらに、本学の学部構成や教育内容を考慮した、資料の再構築による自学自習の環境づくりを目指す。

【研究倫理】

本学では、研究活動についての「愛知学院大学における研究者の行動規範」を制定しているが、研究活動全般について規定・適用する「研究倫理規準」が未整備の状況にある。

### 3. 将来に向けた発展方策

#### ①効果が上がっている事項（優れている事項）

<大学全体>

【校地・校舎、施設・設備整備】

新キャンパス(名城公園キャンパス)として、平成 26 年 4 月に新学部である経済学部、既存の商学部、経営学部のビジネス系 3 学部の開設・移転をめざしている。都市再生プロジェクトをふまえたキャンパスづくりをめざし、平成 24 年 8 月に校舎の着工を開始した。

楠元キャンパス 3 号館は、改築計画中で平成 25 年度着工、平成 26 年度完成をめざしている。

【図書館、学術情報サービス】

#### ①学習・教育支援の推進(学部教学と連携する図書館)

日進図書館では、利用者のニーズを捉える目的で、平成 23 年に「利用実態調査」<sup>72)</sup>を実施。利用者の立場から内容を大幅に改訂した「ライブラリーガイド(平成 24 年度版)」<sup>73)</sup>の制作や、図書館活動の最新情報をタイムリーに提供するニュースレター「アシュバッタ」<sup>74)</sup>の発行などに取り組んでいる。

楠元図書館では、レファレンスデータの登録<sup>75)</sup>、職員のスキルアップを図るべく、研究会などに積極的に参加している<sup>76)</sup>。

両館とも、ガイダンスやオリエンテーション<sup>77)</sup>などでの所蔵資料の紹介を通して、学生の目線に立った、自学自習を支援する図書館を目指して、利用者の利便性の向上に努めている。

#### ②研究支援の充実

日進・楠元両図書館では、データベース<sup>78)</sup>のさらなる普及を図るため、学生・教職員向けの講習会<sup>79)</sup>を定期的で開催している。

#### ⑤効果的・効率的な図書館業務の遂行

日進・楠元両図書館では、『理念と目標』<sup>6)</sup>および毎年打ち立てている年間努力目標<sup>80)</sup>に沿って、利用者に最適な環境を提供すべく、それぞれの館が、より高質で特色ある支援サービスの提供に努めている。

#### ⑥全国レベルの図書館間の連携の深化

日進図書館は、「平成 25・26 両年度の私立大学図書館協会西地区部会長校」<sup>81)</sup>に就任。楠元図書館は、平成 23 年度「日本医学図書館協会第 82 回総会」<sup>82)</sup>や平成 24 年度「医学図書館員基礎研修会」<sup>83)</sup>の開催などを通して、さらなる図書館間の連携の深化に努めている。

#### ⑦社会貢献の推進

日進図書館が取り組んでいる日進市との連携<sup>84)</sup>については、今後も参加者の意見を踏ま

えながら、地域住民に大学の理解をより深めていただけるよう、魅力的な企画の検討を行っている。

## ②改善すべき事項

＜大学全体＞

### 【校地・校舎、施設・設備整備】

平成26年4月に新キャンパス(名城公園キャンパス)へ既存の商学部、経営学部が移転することにより、日進キャンパスの施設・設備の利用学生の減少が予想され、これによる施設・設備の一層の充実や集約をふまえた合理化を検討していく必要がある。

末盛キャンパス北館は歯学部の臨床教育研究施設であるため、医療系の機器備品・機械設備を配備しており、改修または建て替えについては、徒歩圏内である楠元キャンパスとの総合的な計画が必要である。

### 【図書館、学術情報サービス】

#### □資料組織の構築

日進・楠元両図書館では、学部構成、教育内容を踏まえた選書基準の整備に努めてゆきたい。

#### ②利用環境の整備

日進図書館は、私立大学図書館において蔵書数や閲覧座席数、閲覧室スペース<sup>85)</sup>などで上位クラスに属し、快適な閲覧環境を創出すべく絶えず努力を重ねてきた。しかし、グループ学習室や個人学習室は、在籍学生数に比して少なく、周りの利用者に気を遣わずに学生同士が議論しながら問題を発見し、解決策を導き出す学習環境が必ずしも整っているとは言えない。都心キャンパスへの移転を機会に、従来の設備や資料構成を見直すとともに、紙媒体と電子媒体とを有効に組み合わせたハイブリッド図書館として、高度なレファレンスサービスの提供を促進していきたい。本学の学生・教職員のみならず、近隣市町の公共図書館との連携を強化し、問題解決支援情報センターへの進化を目指したい。

楠元図書館では、平成21年にリニューアル工事を実施し、閲覧室の座席数を大幅に増加<sup>86)</sup>したが、開館時間延長を含めた利用環境の整備に対する利用者の要望が強く、ワーキンググループ<sup>87)</sup>を設置し、今後も改善に努めてゆきたい。

### 【研究倫理】

本学における全ての研究分野の研究者が、遵守すべき倫理的な規範を定める「愛知学院大学研究倫理規準」(仮称)については、平成25(2013年)年度中の制定・施行を目標とする。

## 4. 根拠資料

### 現状の説明

- 1) 愛知学院大学将来像検討委員会規程
- 2) 本学ホームページ：名城公園キャンパス計画：<http://www.agu.ac.jp/project140/campus/index.html>
- 3) 歯学部設備施設機器委員会内規
- 4) 日進・楠元・末盛キャンパス配置図
- 5) 名古屋市エコ事業所認定証
- 6) 図書館ホームページ『理念と目標』：<http://www.lib.aichi-gakuin.ac.jp/rinen.html>
- 7) 大学データ集(参考)(表31・表32・表33)
- 8) 図書館情報センター蔵書点検について(平成19年7月30日報告)

## 第Ⅶ章 教育研究等環境

- 9) 図書館ホームページ：本学図書館の特色について：<http://www.lib.aichi-gakuin.ac.jp/riyo/tokusyoku.html>
- 10) 平成 21 年度を初年度とする 3 年間の中期計画（平成 22 年 4 月 1 日策定）
- 11) 歯学・薬学図書館情報センター図書記号付与要領（平成 21 年 4 月 1 日制定）
- 12) 2010 年図書館情報センター外国雑誌契約総括表
- 13) 図書館ホームページ：貴重資料ギャラリー：<http://kicho.lib.agu.ac.jp/index.html>
- 14) 図書館ホームページ：学術紀要データベース：  
<http://kiyou.lib.aichi-gakuin.ac.jp/titles/index/id=0?id=0&menu=>
- 15) 図書館ホームページ：楠元キャンパス学会誌：  
(<http://www.slib.aichi-gakuin.ac.jp/gakukaisi/yakugakukaisi.htm>)  
(<http://www.slib.aichi-gakuin.ac.jp/gakukaisi/sigakukaisi.htm>)
- 16) 図書館情報センター概要
- 17) 歯学・薬学図書館情報センター図書廃棄基準（平成 19 年 1 月 26 日制定）
- 18) 歯学・薬学図書館情報センター開館延長についての打ち合わせ（平成 22 年 8 月 25 日報告）
- 19) 平成 23 年度年報（歯学・薬学図書館情報センター）
- 20) 平成 23 年度春学期図書館オリエンテーション概要（平成 23 年 9 月 14 日代表教授会）
- 21) 図書館ホームページ：マイページとは：<http://www.lib.aichi-gakuin.ac.jp/mypage.html>
- 22) 図書館ホームページ：データベース：<http://www.lib.aichi-gakuin.ac.jp/data/data.html>
- 23) 平成 23 年度オリエンテーションおよび大学院統合講義日程
- 24) 履修の手引 愛知学院大学大学院歯学研究科
- 25) 図書館ホームページ：学習支援：<http://www.slib.aichi-gakuin.ac.jp/gakusyu/gakusyusien.html>
- 26) 新コンソーシアム運営にかかる当面の基本方針について（平成 23 年 3 月 25 日案内）
- 27) 図書館ホームページ：CAN 私立大学コンソーシアム：<http://www.lib.aichi-gakuin.ac.jp/can.html>
- 28) 情報処理センター平成 24 年度時間割
- 29) 総合政策学部 PC 教室使用一覧
- 30) 総合政策学部 SA 配置一覧表
- 31) 総合政策学部 ICR 利用状況表
- 32) ティーチング・アシスタント規程（大学院要項 p.69）
- 33) TA を活用した授業一覧
- 34) 個人研究費規程(例規集)
- 35) 学会出張費規程(例規集)
- 36) 大学データ集（参考）表 26
- 37) 平成 24 年度歯学部キャンパスガイド p. 210-211
- 38) 平成 24 年度歯学部キャンパスガイド p. 208-209
- 39) 平成 24 年度歯学部キャンパスガイド p. 199
- 40) 平成 24 年度立入検査参考資料
- 41) 歯学部講座別現在員表（平成 24 年 5 月 1 日現在）
- 42) 施設資料（歯学部校舎面積）
- 43) 施設資料（薬学部、薬剤実習センター、歯学部動物センター、薬学部棟、4 号館、短大 1 号館、歯学部基礎棟、歯学部動物室、RI 施設、薬用植物園（日進・楠元キャンパス）、4 号館パソコン室）
- 44) 平成 24 年度薬学部履修要項 p.341
- 45) 機器設備検討委員会資料
- 46) 共同機器室資料（薬学部棟、4 号館 5 階）
- 47) 大学ホームページ「大学案内」コンプライアンス等に関する規程：<http://www.agu.ac.jp/about/compliance.html>
- 48) 研究支援課ホームページ「関連規程・ポリシー」研究者の行動規範：  
[http://shien-c.agu.ac.jp/regulation/rch\\_practices.html](http://shien-c.agu.ac.jp/regulation/rch_practices.html)
- 49) 研究活動の不正行為に関する取扱規程（例規集）
- 50) 研究活動の不正行為に関する実施細則（例規集）
- 51) ハラスメントの防止及び処理に関する規程（例規集）
- 52) 組換え DNA 実験安全管理規程（例規集）
- 53) 歯学部ヒト幹細胞臨床研究に関する規程（例規集）
- 54) 歯学部ヒト細胞組織遺伝子疫学情報倫理委員会内規（例規集）
- 55) 歯学部動物実験実施規程（例規集）
- 56) 薬学部動物実験委員会規程（例規集）
- 57) 教養部動物実験委員会規程（例規集）
- 58) 歯学部倫理委員会規程（例規集）
- 59) 歯学部動物実験センターの利用に関する細則（例規集）
- 60) 薬学部臨床研究倫理委員会資料
- 61) 薬学部動物実験指針

**点検・評価**

- 62) オリエンテーション開催案内(平成 23 年 3 月 10 日、9 月 6 日案内)
- 63) 高学年用オリエンテーション パワーポイント及び検索方法講習案内ポスター(歯学・薬学図書館情報センター)
- 64) 国立国会図書館からのお礼状(平成 22 年 1 月 29 日)
- 65) 国立国会図書館 平成 23 年度企画協力員賞状(平成 24 年 1 月 17 日)
- 66) データベース各種講習会案内(平成 23 年 5 月 11 日代表教授会)
- 67) 図書館ホームページ：愛知学院大学学術紀要データベース<試験運用中>ページ  
(<http://kiyou.lib.aichi-gakuin.ac.jp/titles/index/id=0?id=0&menu=>)
- 68) 第 82 回日本医学図書館協会総会第 1 回組織実行委員会議事録及び通常総会開催案内(平成 23 年 4 月 12 日案内)
- 69) 共催企画案及び開催後の「愛知学院だより」掲載記事
- 70) シラバス掲載図書発注リスト
- 71) レファレンス共同データベース：レファレンス事例一覧  
(<http://crd.ndl.go.jp/CRDS/servlet/common.Controler>)

**将来に向けた発展方策**

- 72) 「平成 23 年度図書館情報センター利用実態調査報告」(平成 24 年 4 月 17 日発行)
- 73) 「ライブラリーガイド・平成 24 年度版(平成 24 年 4 月 1 日発行)」
- 74) ニュースレター『アシュバッタ』(平成 24 年 6 月 15 日発行)
- 75) レファレンス協同データベース：企画協力賞リスト  
([http://crd.ndl.go.jp/jp/library/thanks\\_kikaku.html](http://crd.ndl.go.jp/jp/library/thanks_kikaku.html))
- 76) 歯学・薬学図書館情報センター館員の研究等  
(<http://www.slib.aichi-gakuin.ac.jp/insideonly/kannai/kenkyu.htm>)
- 77) 各種オリエンテーション開催統計 (AGUD.P:平成 23 年 5 月 11 日発行)
- 78) 図書館ホームページ：データベース一覧 (<http://www.lib.aichi-gakuin.ac.jp/data/data.html>)
- 79) 平成 24 年度データベース講習会のご案内(各種案内)
- 80) 平成 23 年度年間努力目標
- 81) 2012 年度以降の東海地区協議会役員校および私立大学図書館協会役員校・当番校等(案)
- 82) 平成 23 年度「日本医学図書館協会第 82 回総会案内」
- 83) 平成 24 年度「医学図書館員の基礎研修会案内」
- 84) 日進市との講演会企画
- 85) 図書館情報センター新館紹介(大学図書館研究 73 号平成 17 年 3 月発行)
- 87) 歯学・薬学図書館情報センター平成 22 年度年報(平成 23 年 10 月 31 日発行)
- 87) 歯学・薬学図書館情報センター開館時間延長についての打ち合わせ(平成 22 年 8 月 25 日報告)

